

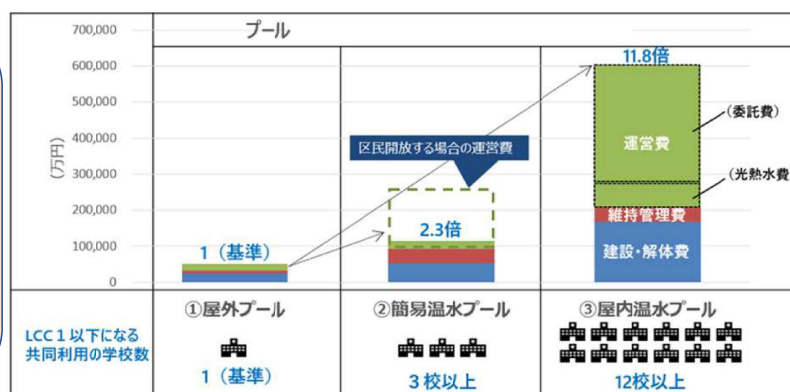
# ◆ライフサイクルコスト（65年）によるコスト比較（令和5年度時点）

| 施設                    | 屋外プール<br>(可動床有)                  | 簡易温水プール<br>(可動床有)                   | 中学校屋内温水プール<br>(可動床有、地下階)            |
|-----------------------|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 利用形態                  | 水泳授業のみ<br>(6月中旬～9月上旬)            | 水泳授業のみ                              | 水泳授業、<br>部活動、区民利用(通年)               |
| ①建設経費<br>(新設・解体費)     | 約2億5,000万円                       | 約5億5,000万円                          | 約16億7,500万円                         |
| ②維持管理経費<br>(改修費、塗装費)  | 約7,700万円                         | 約3億8,600万円                          | 約3億8,600万円                          |
| ③運営経費<br>(点検、清掃、水道代等) | 約285万円/年<br>(約1億8,600万円)         | 約350万円/年<br>(約2億2,750万円)            | 約6,100万円/年<br>(約39億6,300万円)         |
| 概算経費計                 | <b>約790万円/年<br/>(約5億1,300万円)</b> | <b>約1,770万円/年<br/>(約11億4,850万円)</b> | <b>約9,270万円/年<br/>(約60億2,400万円)</b> |

例えば屋外プールを1(基準)としたコスト比較では、簡易温水プールは2.3倍となり、3校で共同利用をした場合、屋外プールを個別で3校利用した場合と比較すると、1年あたりの経費削減効果は3校で約600万円の見込みとなる。

算定例：790×3校＝2,370万円  
2,370－1,770＝600万円

しかし、水泳指導や移動補助員等の費用は別途換算が必要である。

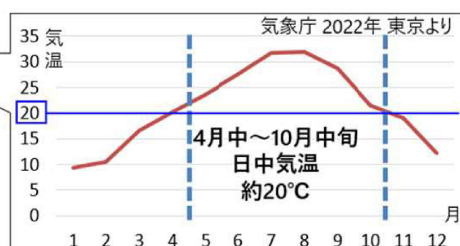


9

## ◆プール別の共同利用対応期間の想定

「簡易温水プール」の共同利用可能数を算出すると、日中気温が約20℃以上になる4月中旬から10月中旬までの約6カ月間を歩行可能期間として想定する。健康診断や運動会、運動測定等春の行事が概ね終了する6月からプール授業開始を基準にすると、3～4校が共同利用できる結果になる。

- 歩行可能な条件を気温20℃以上とした場合  
期間は4月中～10月中  
(10月後半は20℃を下回るため自校利用想定)
- プール授業回数5回想定
- 1回授業当たり1学年2コマ利用想定



プールのタイプと対応利用期間



10